

明治期の日本銀行支店建築 — 建築家 辰野金吾・長野宇平治 —

日本銀行は、1882（明治15）年に永代橋際の本店で開業した後、日本銀行券を全国に供給し、地域の金融を円滑にするため、各地に出張所や支店を設置しました。当初の出張所や支店は既存の建物を購入したり借り入れて業務を始めましたが、日本銀行では、辰野金吾の設計により1896（明治29）年に本店を日本橋へ新築・移転した後、辰野金吾やその下で学んだ長野宇平治らの設計により本格的に支店の建築にとりかかりました。今回のテーマ展では、辰野金吾と長野宇平治が設計に携わった明治期の日本銀行支店建築について、日本銀行金融研究所アーカイブが所蔵する写真を中心に紹介します。あわせて当時流通していた日本銀行券も展示します。

辰野金吾は日本銀行の工事監督として、本店・西部支店を設計した後、自営の建築事務所による活動を中心とし、日本銀行の建築には工事顧問として携わった。このため、日本銀行の支店建築は、大阪支店以降、実質的には辰野金吾の下で学んだ日本銀行技師・長野宇平治が手がけた。小樽支店竣工後、長野も建築事務所を開設するが、その後も多くの日本銀行本支店建築の設計を担った。



辰野金吾
1854～1919年
(嘉永7) (大正8)

1879年工部大学校第1回生首席卒業
1884年工部大学校教授に就任
1888年日本銀行本店の設計者となる

日本建築界の基礎を築いた中心人物。
コンドルに師事し留学後、日本銀行本店
や多くの日本銀行支店の建築に携わった
ほか、東京駅や両国国技館など多数の設
計に携わる。

本店
1896年
(明治29)
現存・重文



大阪
1903年
(明治36)
現存



京都
1906年
(明治39)
現存・重文



金沢
1909年
(明治42)



小樽
1912年
(明治45)
現存



西部(門司)
1898年
(明治31)



広島
1905年
(明治38)



名古屋
1906年
(明治39)



函館
1911年
(明治44)

福島1913年 (大正2) 竣工

※年は竣工年



長野宇平治
1867～1937年
(慶応3) (昭和12)

1893年帝国大学工科大学卒業
1895年奈良県庁舎設計
1897年日本銀行技師となる

辰野金吾に師事し、日本銀行西部支店の
現場、大阪支店の設計に携わり、以降数々
の銀行建築をてがける。

辰野没後の日本銀行旧岡山支店(1922年)・
旧広島支店(2代目,1936年)・旧松江支店(1938
年)・本店増築2, 3号館(1935,38年)など
が現存する。

日本銀行本店建築から日本銀行支店建築へ

日本銀行本店竣工後に、辰野金吾は各支店の新築に取りかかった。
本店で使われた三角形のペディメントを支える円い双柱のデザインは、直後に手がけた西部支店、大阪支店でも見ることができる。



本店1896年(明治29) 重要文化財



日本銀行落成之図

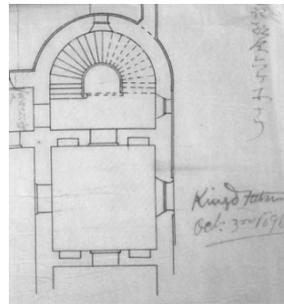
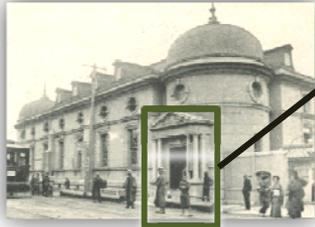
落成式は1896年3月に催行された。



大阪支店1903年(明治36)

老朽化等により1980(昭和55)年～1982(昭和57)年にかけて復元・改築工事を行い、現在も旧館として利用している。東・南・北3面の外壁、屋根を保存したほか、建物内部の記念室(貴賓室)、大階段などを復元・保存した。

西部支店
1898年(明治31)



西部支店の図面では辰野金吾が、自ら図面に指示を書き、サインしているものが複数残されている。
辰野は多くの日本銀行支店建築に携わったが、設計の細部に携わったことを示す資料は珍しい。
この後の日本銀行支店建築は、設計の実務を長野宇平治らの技師が担い、辰野金吾は顧問として関与することになる。

辰野金吾が指示書きをした西部支店図面 1896年10月

現存する明治期の日本銀行支店建築

明治期の日本銀行支店建築は多くが失われたが、大阪支店、旧京都支店、旧小樽支店の3つが現存する。



旧京都支店 重要文化財

1906年(明治39)

京都府京都文化博物館 別館

京都支店は1965(昭和40)年に移転し、建物は1969(昭和44)年重要文化財に指定された。京都府により創建当初の姿に修理・復元された後、1988(昭和63)年より京都文化博物館別館として利用されている。



旧小樽支店

1912年(明治45)

日本銀行旧小樽支店金融資料館

“北のウォール街”と呼ばれた小樽の面影をそのままに残している日本銀行旧小樽支店。2003(平成15)年より日本銀行の業務と歴史を紹介する広報施設として一般公開している。